

KeMCo

Keio

Museum

Commons

慶應義塾ミュージアム・コモنز(Keio Museum Commons [KeMCo])とは



新萬来舎におけるネルー首相レセプション(1957)

大学には、学生、教員、職員、卒業生など、アカデミック・コミュニティのメンバーが交流する伝統的な場所として「**コモン・ルーム(Common Room)**」が設けられています。慶應義塾では、「**萬来舎**」がその役割を果たしてきました。慶應義塾ミュージアム・コモنزは、ミュージアムにおけるコモン・ルーム、そして、公有／所有の枠組の外にあり、コミュニティ全体で守り活用する入会地としての「**コモنز**」です。

慶應義塾ミュージアム・コモنزは、大学に関わるあらゆるコミュニティが、文化財を基点として交流する場、大学に存在するコレクションが相互に交流し、デジタル空間を通じてグローバル・ネットワークに接続する場です。



慶應義塾大学三田キャンパス

慶應義塾ミュージアム・コモنزは、慶應義塾の収蔵・展示施設を活用した「**分散型ミュージアム**」のハブとして機能します。先進的なデジタル環境を備え、デジタル・アナログ融合型の展示プログラム、コレクション・プログラム、ディベロップメント・プログラム、サポート・プログラムなど、多様な活動を展開します。

教育の領域では、新たな教育プログラムの開発によって、ミュージアム・プロフェッショナルの育成にとどまらず、慶應義塾の文化財を活用した教育を行います。さらに、最新の研究成果に基づく高度な生涯教育を担うとともに、大学および地域の歴史・文化を体験する場ともなります。

研究の領域では、文化財を対象とする研究を展開し、その研究資源を蓄積する舞台となります。様々なコレクションの交差点となるミュージアム・コモنزでは、領域横断的な研究が生み出され、多様な研究成果の受信と発信が行われます。

交流の領域では、「**塾生**」「**教員**」「**職員**」「**塾員(卒業生)**」「**国内外の研究者コミュニティ**」「**地域**」など、学内外／国内外のコミュニティのメンバーが、文化財や文化財に関わる研究教育活動を通じて交流する、人的交流の場が立ち上がります。ミュージアム・コモنزは、大学を取り巻くコミュニティに対し、大学のコレクションが働きかける窓口でもあります。

展示プログラム

Exhibition Programs

展覧会、特別展示プログラム

コレクション・プログラム

Collection Programs

コレクションの保存、修復、調査

ディベロップメント・プログラム

Development Programs

コンファレンス、ワークショップ、講義など、文化財を基軸とする発展的な活動

サポート・プログラム

Support Programs

講義等でのコレクション活用支援、助成プログラム

その他

General Programs

刊行物(紀要、ニューズレター、叢書など)



慶應義塾収蔵作品

左上: 秋草文壺

右上: 福澤諭吉写真 在米少女と共に

下: 女性頭部、哲人の顔